

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

資料3

都道府県名	愛知県	事業実施主体	愛知県、愛西市	地域再生計画名	ひと・自然 愛があふれるまち 愛西市の農業と生活を支える道づくり計画
計画期間	令和4年度～令和8年度	評価責任者	愛知県海部農林水産事務所長、愛西市産業建設部長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	目標	内容	基準年度	基準年度	年度	中間実績	基準年度	基準年度		指標総数	達成数		
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	目標1	広域農道及び関連市道の整備による担い手農家への農地集積	212ha	R3	230ha	R6	261.8ha	240ha	R8	○	3	1	農地中間管理機構の活用、農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画への担い手の位置付けなど、国の施策の後押しもあり、当初の想定より担い手への農地集積が大きく加速し、中間目標値である230haを超える農地集積が図られた。今後、農家の高齢化に伴い離農が進む恐れもあるため、引き続き農地集積を進める。
	目標2	広域農道及び関連市道の整備によるレンコン出荷量の維持	2,480t	R3	2,480t	R6	2,055t	2,480t	R8	×	3	1	台風等の影響により、レンコンの品質が悪化し、令和4年度（令和6年度統計）の出荷量は2,055トンと目標値を下回った。しかしながら、令和5年度、令和6年度の出荷量について現時点では未公表であるが、生産者への聞き取りの結果、晴天が続く、高温な気候も後押しとなり品質の良いレンコンがたくさん収穫できたとの声も聞いており、出荷量は改善が図られるものと考えている。 また、令和元年に設立したれんこん産地協議会において、県・市・JAが連携してドローン等を活用した新たな営農技術体系の検証を進めると共に、レンコンを使った新商品開発や集荷場施設の改修を実施するなど、需要創設や作業の効率化を進めており、品質や価格の向上を目指すことで、出荷量を維持し、目標達成に努める。
	目標3	交流人口の拡大	230千人	R3	270千人	R6	197千人	290千人	R8	×			観光人口の増加を目指し、令和4年度から道の駅のリニューアル工事を実施しているが、この工事の実施に伴い、道の駅施設の一部が開鎖されていた影響から令和6年度における実績は197,000人と目標値を下回った。 一方、当該地方創生道整備推進交付金を、道の駅整備に合わせた道の駅近辺道路の市道4151号線の整備に集中的に投入したことから、施設へのアクセスを大幅に向上させることができた。これによって、令和8年春に道の駅がグランドオープンした際にはこれまで以上の集客も見込まれ、最終的には目標値である290,000人を達成できる見込みである。
②事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度 (R6)	最終実績 見込み								
特別措置を適用して行う事業	市道事業		6.32km	3.39km	6.32km	市道4151号線については、道の駅整備事業に関連して集中投資を行い、令和5年度に完成した。市道5号線及び市道2号線については、令和8年度に工事完了見込みであるが、事業量ベースでは資材や人件費の高騰により、進捗が遅れているため、計画量の見直しを考えている。							
	広域農道事業		0.5km	0.55km	0.55km	令和6年度末までに未開通区間の舗装、安全施設（デリネーター等）等の整備が完了し、広域農道を開通（供用開始）することができた。広域農道の全線16.8kmが完成したことにより、交通環境が改善し、担い手への農地集積に寄与している。							
その他の事業	地域創生拠点整備交付金	愛西市の道の駅「立田ふれあいの里」に設置されている農産物直売所の再整備	地域創生拠点整備交付金は見送り、社会資本整備総合交付金を活用した整備を実施した。、令和4年度から工事に着手し、令和6年度に農産物直売所の建物を更新し、令和7年4月から供用を開始した。令和8年には周辺施設も供用を開始され、道の駅「ふれあいの里HASUパーク」としてグランドオープンが予定されており、交流人口の拡大が期待される。										
	開輪地区経営体育成基盤整備事業	農業用排水施設等を整備し、営農条件を改善する事業	計画路線が広範囲に散在していることから、施工に際しての交通規制の影響が大きく、地元調整等の結果、単年度での広範囲の施工が困難となったため、整備の進捗に若干遅れはあるが、地域内の調整は完了しており、令和10年度までに完了する見込み。本事業により、営農条件が改善され、担い手農家への農地集積が促進されている。										
	農地中間管理事業	農地中間管理機構がまとまりのある形で担い手農家に貸し付けることによる農地集積の促進する事業	愛西市では、農地中間管理機構の運用が開始された平成26年以降、当該組織が農地の貸し借りを担うことで手続きが効率化され、積極的な農地集積が図られている。										
	道の駅周辺整備事業	道の駅周辺の施設等を整備し地域振興拠点としての機能を強化する事業	令和6年度末までに観光案内所・駐車場の整備が完了した。令和7年度は観光拠点施設・公園・フードコートの整備を実施し、令和8年度に道の駅「ふれあいの里HASUパーク」としてグランドオープンが予定されており、交流人口の拡大が期待される。										
	幹線市道舗装事業	1・2級市道の舗装長寿命化修繕計画を策定し、効果的かつ効率的に舗装修繕工事を実施する事業	舗装長寿命化計画に基づき、効果的に修繕工事を実施しており、快適で安全な道路ネットワークの構築に努めている。										
計画外で独自に実施した事業	愛西市釣り大会	生態系、農業用施設の理解を深めるイベント	農道や農地、農業施設の存在意義、農業用施設がはぐむ生態系への理解を深めてもらうことを目的とし、一般市民を対象に、農業用排水路等で釣り大会を開催した。令和4年度に鶴戸川、令和6年度にゲノタ川で釣り大会を開催し、各年度共約60人程度が参加した。このようなイベントの実施することで、農村地域の活性化に寄与している。										
③評価方法	「ひと・自然 愛があふれるまち 愛西市の農業と生活を支える道づくり計画」中間評価委員会を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討を行った。												
④中間評価の公表方法	愛知県及び愛西市のホームページで公表。												
⑤計画全体の総合評価	本地域再生計画は、地域の活性化を図るため、地方創生道整備推進交付金を活用し市道と広域農道の一体的な整備を効率的に行うものである。市道の改良及び広域農道を一体的に整備することにより、農業輸送の大型化に対応しながら地域住民にとって快適で安全な道路ネットワークを構築し、暮らしと農業のバランスのとれた「ひと・自然・愛があふれるまち」の実現を目指している。中間年までは、道の駅整備のための関連事業と地方創生道整備推進交付金を活用した市道整備、広域農道尾張西南部地区の全線開通に集中投資し、計画目標の早期発現が図られるよう事業を進めた。今後も残りの市道整備及び関連事業を進めることで、引き続き目標の達成に努める。												
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況						有りの場合その具体的内容						
	地域再生計画の見直し（有・無）												
令和〇年度予算要望額への反映（有・無）													
有りの場合の増減額 千円													
⑦今後の方針等に対する対応	本地域再生計画に基づく地方創生道整備推進交付金を活用した事業により交通条件が改善され、担い手への農地集積が促進した。しかし、依然として農家・農地面積及び交流人口の減少が続いている。こうした地域の課題克服のために、引き続き地方創生道整備推進交付金を活用した市道の整備を進める。また、道の駅周辺整備や農地中間管理事業等の関連事業を組み合わせ、農業・交流拡大を、包括的に促進するため各方面との連携を図ることで、今後も地方創生道整備推進交付金の有効な活用を進めていく。												